

## 第5学年「てつがく」学習指導案

授業者 田中 千尋

2月21日(木) 1階多目的室 10:00~10:40 話し合い10:55~11:45

- 1 題材名 自分と世界
- 2 考える価値内容 世界
- 3 題材について

### (1) 子どもにも教師にも難しい「世界」の内容

この4年間の「てつがく」を中核にした研究の中で、授業者は過去3年間、主として3年生の実践を行ってきた。中学年の子どもにとって「自己」「他者」の内容は、身近な問いが多く、比較的扱いやすい。しかし「世界」に関する内容は難しい。子どもにとっては、直接自分の生活に関係のないことが多く、教師にとっても、どんな問いで対話させれば良いのか、つかみどころがないのだ。

これは、高学年でも同じ状況である。現在の5年生の様子を見ても、「自己」や「他者」に関するテーマ・問いでは比較的対話が活発である。発話できなかつた子どもも、授業後の「ふり返しシート」に思いを綴ることができる。〈内容-(1)オ〉ところが「世界」に関するテーマ・問いでは、対話が停滞したり、一部の子どもだけに限定され、「ふり返しシート」にも「今日の内容はむずかしかった」「自分に関係ないような気がして、何も発言できなかつた」といった記載が目立つ。しかし、私は一貫して「問いに年齢制限はない」という理念を持ち続けている。3年でも5年でも「あるってどういうことだろう」といった存在論に関わるテーマも実践してきた。

### (2) サークル対話に「思考実験」の場面を取り入れる

今年度の5年生の「てつがく」では、子どもたちにとってはやや難しい内容の場合、「思考実験」という場면을積極的に取り入れるようにしている。〈内容-(1)ウ〉特に、対話が滞ってしまった場合、同じ種類の発話が繰り返されたような場合、或いは一部の子どもだけで対話が進んでいるような状態の時に有効に見える。また、対話の方向性が著しく「問い」と乖離してしまった場合にも、取り入れることがある。「思考実験」にはさまざまなタイプがあるが、思考の実験なので、いずれも頭の中で考える「実験」である。3学期に入って、子どもたちの間からも、自発的な「思考実験」の提案が出るようになったので、それも期待したい。

## 4 学習指導計画(3時間目/全4時間)

- ・「もし、世界に自分しかいなかったら」 …2時間
- ・「もし、世界から自分がいなくなったら」 …2時間

本時はいずれかの問いで対話する予定。

## 5 本時の学習について

### (1) 本時のねらい

- ・自分の世界の関係について、「思考実験」を取り入れながら、さまざまに視点を変えながら考える。

### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"><li>・サークル対話の形をとる。教師もその中に入る。</li><li>・中心には、地球儀を置く。(見つめる為)</li><li>・前時の対話を、「ふり返しシート」も活用してふり返る。</li></ul>
2 本時の問いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"><li>・世界は一つでも、いろいろな「自分」があることを、他者の発話から読み取る。</li><li>・対話の中に数回、「思考実験」の場面を取り入れる予定。</li></ul>
3 本時をふり返り、さらに自分で考える。	<ul style="list-style-type: none"><li>・本時の対話を想起し、「ふり返しシート」を記入する。</li><li>・発話できなかつたこと、他者の発話で心を動かされたこと、今後対話してみたい「問い」などを、自由に書く。</li></ul>

## □授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ①5年生の子どもにとって、抽象度の高い「世界」の内容は適当なのか。
- ②対話の中に、「思考実験」を取り入れることの利点・欠点。